

郷土の自慢と誇り 久々利ふるさとマップ

久々利の多様な自然

可見市で最も高い浅間山(標高372m)を中心とした丘陵地は、シイ・アラカシ・コナラ・アベマキなどの自然林が分布し、サクライソウやギフチョウを代表する多様な動植物を育てています。また、所々に見られる湧水湿地には、東海丘陵要素植物のトウカイコモウセンゴケやハッチョウトンボなど希少生物も密やかに生息しています。



サクライソウ

久々利の浅間山の雑木林に自生する腐生植物で、背丈8~20cm程の小さな淡黄白色のユリ科に属する植物です。葉緑素がないため光合成ができません。したがって、腐葉土から栄養をとっています。6~7月ごろ茎と同色の直径2~3mmの小さな花をいくつか咲かせます。サクライソウという名は、1903年(明治36年)恵那山麓で標本を採集された桜井半三郎の姓をとって命名されました。久々利の浅間山自生地は、1914年(大正3年)久々利出身の加藤新市によって発見されました。サクライソウは極めて限られた場所に自生し珍しい植物であると同時に、その形態が他の植物と異なることから、世界的にも稀とされ、我が国では、久々利のサクライソウ自生地のみが国の天然記念物に指定されています。現在、久々利を含め各地のサクライソウ自生地は、環境の変化により、絶滅が危惧されています。サクライソウをはじめ、大切な久々利の自然を後世に伝えていきたいものです。

シデコブシ



モクレン科の低木落葉樹で湿地に生育しています。春先に美しい白から薄桃色の花を咲かせます。コブシに比べ花弁は細く枚数も多いのが特徴です。シデは神事に使用する紙垂(しで)と似た花弁が由来です。分布は愛知県東部から岐阜県の東濃地方に生育しています。東海丘陵要素植物の一つです。

ギフチョウ



アゲハチョウのなかまで、年に一度早春の雑木林に現れます。成虫はカタクリやミツバツツジの花から蜜を吸い、メスはカンアオイの葉裏に卵を産みます。ふ化した幼虫はその葉を食べてやがてサナギになります。ギフチョウの名前の由来は、岐阜県下呂市金山町で最初に発見されたためギフチョウと命名されました。

アサギマダラ



旅をすることで知られるアサギマダラはアゲハチョウほどの大きさで、ステンドグラスを思わせる茶色と浅黄色を基調としたマダラ模様(あさぎいろ)の翅を持つ大変美しい蝶です。特に秋空をバツクにゆるやかに滑空する姿を目にしたとき、その優雅な舞(はね)に感動し、心が洗われます。秋、どこから飛んでくるのか、久々利でもその美しい姿を観察することが出来ます。

サンコウチョウ



三光鳥と書きます。鳴き声が「月日星(つきひほし)ホイホイ〜」と聞こえることからその名がつけました。毎年初夏、南方より渡ってきて巣作りから子育てをします。子どもが一人前になる秋にまた南方へ帰って行きます。久々利では小淵ため池上流の沢沿いに見られます。雌雄ともスズメほどの大きさですが、目の周りが水色でとてもきれいなこと、雄の尾がとても長いことが特徴です。